

## 藤原丈太郎先生(渋谷外国語専門学校)による授業レポート

### ○今後、SDGsカードを使う先生へ

外国人の専門学校での使用は珍しいかもしれないが、やはり学生の生活に身近な題材であればあるほど学生は取り組みやすく、意見も出しやすいのだと改めて思いました。

### 藤原先生の授業、専門学校2年生(1クラス20名前後)への卒業研究

#### ○児童・生徒の事前のSDGs認識

「卒業研究」という授業で17の目標について、「共につくる私たちの未来」を含む資料集などを使用し学びました。

#### ○単元とねらい

コンビニに関する問題という身近な事柄からでも、それをプラスに考えることによってSDGsの目標につなげていくことができることを感じてもらう。

#### ○学習活動の流れ(順をおって記述。発問や指導の留意点等も)

- ①1グループ4人程度でグループ分けし、SDGsカードを各グループに1セット配布。
  - ②口頭とホワイトボード板書で考えるテーマを伝える。テーマは「コンビニの営業時間短縮」。当時セブンイレブンのフランチャイズ店長と本部との、店舗人員不足による夜の営業時間短縮についてのやり取りがニュースなどでも取り上げられていたので、それを題材にし、一見不便になってしまうと思われるコンビニの時間短縮を、SDGsの目標に向けての観点で考えてみたらどうなるかと問いかける。一番簡単な例として夜電気を使わなくなることによって、目標7「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」。
  - ③グループのメンバーで、SDGsカードを見ながら考え、そして選んだカードを並べながら、出た意見を紙に書いていく。(15分程度)
  - ④順番にグループで発表。どの目標を選んだか、SDGsカードをホワイトボードに貼ったり、並べたりしながら提示して話してもらう。
- 基本的には目標に向かってポジティブな点をあげてほしいと伝えるが、どうしてもデメリットを出してしまう場合も否定せず話してもらうようにした。

#### ○児童・生徒の反応

コンビニという、特に現代の都会では生活に不可欠ともいえる身近な題材だったため、とても楽しそうに色々な意見を出してくれた。

○授業の様子

